

今後の地方創生に向けた地域経営の在り方 —群馬県富岡市をフィールドとして—

高瀬 理帆

【要旨】

本論文では、地域が自主的・主体的な取り組みを行うための仕組みである「地域経営」に注目する。そこで、成功事例として知られる大分県由布市の観光まちづくりから成功を生み出すプロセスを導いた「由布院モデル」を用いて地域経営の成立条件を整理する。その条件が「地域特性」「動的ネットワーク」「市場競争力」の3要素と「SECIプロセス」である。さらに、これら进行分析枠組みとして群馬県富岡市の「まちやど—蔭屋」の事業を分析したところ、当事業の「内面化」と「市場競争力」における弱さが明らかになった。だが、これらは当事業の課題になるとは断言できない。それよりも、「まちやど—蔭屋」は関係人口の創出など地域社会を豊かにする点で有益な事業として評価できる。今後の地域経営の在り方においては「由布院モデル」が示す成立条件はもとより、地域独自の視点による事業目的の設定や地域主体の連携といった「基盤づくり」が重要であると考察した。

【講評】

大変な情熱を傾けて執筆された力作であり、心から拍手を送りたい。商学部生としてふさわしい研究テーマを選び、しかるべき先行研究を十分に踏まえている。理論的枠組みが明確なうえ、文献解釈に加え、コロナ禍にも負けずにインタビュー調査を行っている。論文の構成、検証の方法、表記のわかりやすさのほか、目次、参考文献、注記、字数、図表の処理など、論文執筆マナーを完全に心得ており、申し分ない。本研究におけるSECIモデルの適用はチャレンジングであるが、この論文をもとに「地域経営」のあり方を再吟味し、学術と実践の両面にフィードバックすることにより、大きな貢献が期待されるであろう。以上のことから、きわめて水準の高い論文として評価することができる。